

# 横浜中華街関帝廟参拝体験記

国際日本学部 国際文化交流学科 中林 広一

国際日本学部 国際文化交流学科2年

荒木陽与里、蒲谷舞羽、高橋瑠花

国際日本学部国際文化交流学科は4つのコースから成り立っているが、それぞれのコースが2年次に演習系の科目である「コース演習Ⅰ・Ⅱ」を開講している。この科目は、3年次のゼミナールにて自身の関心に沿った本格的な学修を予定している学生が事前に行うトレーニングを意識した構成をとっている。コース演習の内容は各コースの学びに合わせて組み立てられているが、筆者（中林）の所属する文化交流コースではプログラムの一つとして校外学習の機会を設けている。

この校外学習では異文化理解や多文化共生といった本コースのテーマを踏まえつつ、担当教員の専門に応じた施設が複数選ばれ、学生は自身の関心に応じて訪問先となる施設を選ぶこととなっている。筆者が今年度実施した訪問先は横浜中華街にある関帝廟であるが、この関帝廟について施設見学に参加した学生がその概要をまとめてくれたので、以下紹介を行っていききたい。（中林）

## ○関帝廟について

関帝廟とは、古代中国の武将、関羽を御神体として祀っている宗教施設である。関羽は信義に厚

い武将として有名であり、民衆によって様々な逸話が生まれていった。後にその存在が神格化され、祀られた祠が関帝廟の始まりだと言われている。

現在、横浜中華街に建てられている関帝廟は1990年8月14日に再建された四代目であり、初代から三代目のものは火事や自然災害で倒壊、焼失してしまった。因みに初代が建設されたのは1871年と今から100年以上も前である。そして、以前は中華街の裏通りに建設されていたが、通りに面した場所に再建した結果、人々が気軽に足を運べるようになった。

建物に使われている素材のほとんどは中国から取り寄せたもので、中国出身の職人達が構築に携わった。日本とは違い、極彩色の龍などの色鮮やかで煌びやかな装飾が目立つ。また、入口の所には日本でもお馴染みの「狛犬」のような石獅の像があり、チャイミングな表情が特徴的だ。

主神は関聖帝君（上記の関羽）という商売繁盛の神様であり、その他にも玉皇上帝（国泰平安の神）、観音菩薩（解難、健康の神）、地母娘娘（除災、長命の神）、福德正神（財産保全の神）と合わせて五人の神様が祀られている。

本殿内での参拝を希望する場合は、受付にて線香を購入することで入場できる。また、参拝記念として表面に関聖帝君が描かれ、裏面がお札になっているカードを貰うことが出来る。裏面に「護符」と書いてあるため、このカード自体がお守りとなるそうだ。

いくつもの災厄を乗り越え、人々に愛されてきた関帝廟は、横浜中華街屈指のパワースポットとも言われている。是非一度訪れてみてほしい。

（蒲谷 舞羽）

## ○参拝方法について

関帝廟での参拝方法は日本の神社と大きく異なっています。まず最初に、お供え物として線香を5人の神様を表す5つの香炉に順に供えていきます。手順は線香に火をつけ、手であおいで炎を消します。このとき線香に息を吹きかけてはいけません。続いて、順番に5つの香炉に線香を供えていきます。供えるときに、3回お辞儀をしてから香炉

にさします。参拝する順番と意味は、玉皇上帝には国泰平安を願ひ、関聖帝君には商売繁盛と入試合格、家内安全と学問を願ひ、地母娘娘には健康と除災を願ひ、観音菩薩には解難と健康、縁談と安産を願ひ、福德正神には金運と財産保全を願ひます。

その後、廟内へ入りますが、日本で参拝する時は自分が興味のある神様だけに参拝する人が多いと思います。けれども、関帝廟では、自分の願いを伝えたい神様だけに参拝するのではなく、最初に全ての神様に順番に挨拶をしなければなりません。挨拶の内容も決められおり、名前・生年月日・住所を順に沿って、それぞれ3回伝えます。さらに日本の参拝方法は、二礼二拍手一礼が一般的ですがここでは、膝をつき、目を閉じ、両手を合わせて参拝します。参拝する順番は、まず本殿から南の正門に向けて玉皇上帝に参拝し、次に中心の関聖帝君、左の地母娘娘、右の観音菩薩、斜め右の福德正神の順に参拝します。全員の神様に挨拶をしてから、ようやく願いを叶えて欲しい神様に参拝ができます。願い事にも気をつけることがあり、道教の神様は具体的な願い事を叶えてくれるため、願ひは具体的に伝えるようにしなければいけません。

(高橋 瑠花)

### ○おみくじについて

関帝廟では中国式のおみくじを引くことができます。おみくじの引き方は日本とは全く異なる。自分が1番願ひたい神様の礼拝台に膝まずき、目を

瞑り手を合わせて氏名・住所・年月日と具体的な願ひを心の中で唱える。

そして供物台からおみくじの棒が入っている「籤桶」という筒を持ち、自然におみくじの棒が1本飛び出すまで籤桶を振り回す。1本取り出したら供物台に置いてある「神筭」という三日月の神具を床に落とす。表と裏が出た場合はおみくじの棒を係の人に渡し、おみくじを受け取ることができる。しかし両方表もしくは裏が出た場合は籤桶を振って棒を取り出すところから始める。3回続けて両方表もしくは裏が出た場合は神様からの許しが得られなかったこととなり、おみくじを引くことができない。

おみくじは大吉・上吉・上上・中吉・中平・下の6段階に分けられている。悪い結果のおみくじを引いた場合は燃やすことができる。日本のおみくじは今後の自分の状況を神様に占ってもらいが、関帝廟のおみくじでは悪い結果を引いた場合、自分の悪運が流れた証拠とも言われているため開運効果を期待することができる。(荒木 陽乎里)

以上の内容からも明らかのように、関帝廟での参拝方法は神社や寺院とは大きく異なっている。神への拝礼に当たっては自身の個人情報やきちんと示さねばならないし、願ひ事がある場合は、その内容は極力具体的であることが求められる。これは道教が現世利益の性格を強く有した宗教であることに起因するが、このように私たちにとって馴染みのある宗教とは異なった側面を持つ宗教に

ついて触れる経験は、学生たちの感覚や価値観の相対化を促す効果を持つことから、異文化理解・多文化共生という本コースのテーマに適した機会であると言える。

本稿でも執筆してくれている高橋は「最初はおみくじを引けない人がいるという話が面白いと思って見学を希望したけれど、想像以上に参拝する方法がいつも自分でしている方法と違っていたので驚きました。全員の神様に挨拶するのも、その挨拶の方法が名前と生年月日だけではなく住所まで言うのは驚きました。」との感想を寄せているし、その他の参加者も同様の刺激を受けたようである。

今後日本社会は国外から多様な文化的・社会的バックボーンを持った人々を留学生や観光客、そして移民として受け入れることになるが、そのような未来に向けて私たちは異文化の論理・価値観を把握することが求められようし、かつ良きコミュニケーションを成立させるための努力も必要とされるはずである。ともあれ、今回行った施設見学は学生にとってそうしたことについて考える契機になったと考えられる。そして、本稿を読まれている皆さんも、横浜中華街に立ち寄る機会があれば、ぜひ関帝廟に立ち寄ってもらい、異文化について思いを馳せてもらえると嬉しく思う。(中 林)



写真①：香炉に線香を供える



写真②：護符となるカードとおみくじ

参考文献・サイト

- 横浜関帝廟公式サイト： <https://yokohama-kanteiyo.com/>
- Icotto ひみぢるたび： <https://icotto.jp/presses/5794>
- TABI CHANNEL： <https://tabichannel.com/article/1082/kanteiyo>
- ハブのくま横浜散歩： <https://hanakuma3.com/yokohama-kanteiyo-chinatown/>